



特別支援教育部会

特別支援 教育部

特別支援教育を通じた意志をもっている姿

子どもたち自身が「～したい。」という思いをもち、自信をもって良さや得意を発揮して、学んだことと生活をつなげる姿

視点 1

自らの学びを つなぐ

【その姿に向かうために】

- 子どもたち自身が「できそう。」「やってみたい。」という思いをもてるような教材との出会いの場を設定することで、学習課題や活動内容を限定・焦点化し、「まずやってみよう。」と安心して行動に移すことができるようにする。
- 興味や得意を起点に活動を構成した上で、「誰かに伝える」「何かをつくる」など、意味ある文脈での学習にすることで、目的意識をもって興味関心と結び付けながらやってみたいことを考えられるようにする。
- 「できた。」「わかった。」という経験をスモールステップで積み重ねることができるような単元構成にすることで、自分の力でやり遂げたという思いをもち、次の活動への期待感につなげて更なる「～したい。」を生み出せるようにする。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 子ども全員のよさや得意を把握し、それを生かし、一人一人が活躍することができるような場面や活動を設定することで、子ども同士がお互いのよさに目を向け、子ども同士のやり取りが増えるようにする。
- 興味をもったものを誰かと共有しようとする瞬間を逃さずに見取り、価値付けることで、共感する嬉しさや喜びを感じ、自分の思いや考えを発信してみようという気持ちが芽生えるようにする。
- 信頼できる大人や共感しやすいペアを作り、必要に応じてグループを組むことで、他者と関わる時に関わりやすい相手を選択しやすくする。
- アイコンタクト、絵、頷きなど、言語だけでなく動作などのつながり方も見取り、学びに変えることで、自分なりの方法で他者に考えを伝えようという気持ちをもてるようにする。

※下線は教師の手立てを示している。

特別支援教育部の成果と課題

【令和7年度の特別支援教育部で目指した意志をもっている姿】

子どもたち自身が「～したい。」という思いをもち、自信をもって良さや得意を発揮して、学んだことと生活をつなげる姿

次年度につなげていきたいことや方向性について

視点1 自らの学びをつなぐ

活動の中の学びを自覚するための

目的意識の明確化・具体化

子どもの興味や得意を起点に活動を構成した上で、「お祭りをする」などの共通の目標を設定して学習を行った。そうすることで、一人一人がお祭りでお店を出すというイメージをもち、そのためにはどんな準備をしたらよいのかを考え、計画的に活動する姿を生むことができた。しかし、子どもによっては誰のために活動を行うのかという視点が曖昧であったため、目的意識が薄くなり、自分の興味関心のある活動を追究する時間が長くなってしまった子もいた。

そのため、「誰のために」「何のために」といった活動の目的を、学習の初めにより明確かつ具体的に提示し、活動が目的から逸れた際に立ち返ることができるようにする。目的意識が具体的になることで、単元のゴールに向かって活動の中の学びを子どもが自覚することができると考える。

個に合った情報の提示の仕方と

一貫性のある1時間の学習の流れ

単元全体の流れや日時などが分かるように掲示物を用意したり、毎時間の取り組みをワークシートに記録し積み重ねたりすることで、単元全体の見通しをもち、これまでの学習を振り返って本時の活動を考えたり、次時への意識をもったりすることができた。しかし、本時の流れや終わりの時間などの提示が口頭で伝えるのみになってしまい、子どもによっては有効な手立てになっていなかった。

そのため、視覚情報や聴覚情報を活用するなど、その子に合った情報の提示の仕方を工夫し、1時間の流れや終わる時間を明確にする。そうすることで、より1時間の見通しをもつことができ、活動の切り替えを自主的に行うことができるようになる。また、学習の「始まり・中・終わり」の活動や時間を単元や教科を通して共通な流れを繰り返すことで、活動や時間の流れがより定着すると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者の学びへの必要感を生む

課題設定や交流の工夫

子どもそれぞれのよさや得意を把握してそれを生かせるような自由度のある活動を構成し、グループを組んだ。それにより、興味関心のある物事をきっかけに他者の活動が目に入りやすい環境になり、グループで関わり合いながら活動しようとする姿が生まれた。しかし、まずは興味関心のある活動に個人で没頭したい思いが強く、他者の学びに目を向けられていない子どもも見られた。

そのため、個人で追究できる機会を十分に確保した上で、他のグループや友達の活動を実際に行ったり体験したりする場を設定する。それにより、実際に活動する中で他のグループの工夫や自分たちの課題に気づき、自分の学びを見つめ直すことができると考える。

複数の教員や教室で一貫した指導を行うための
手立ての工夫

子ども同士や大人との関わりの中で見られた姿を価値付け、集団へつなぐような関わりを繰り返した。その結果、子どもが自分の思いを受け止めてもらえるという安心感をもち、少しずつ他者と関わろうとする姿や他者の学びに関心をもつ姿が見られるようになってきた。一方で、手立てが見取りや価値付けなどに偏ってしまい、教師によって関わり方が異なることで、見取りが不十分となる場面が生じてしまうことがあるという課題が見られた。

そのため、指導計画を活用しながら、その子にどのように関わるかを教師間で共有し、個別の目標を基に、環境の構成や活動の工夫など、様々な方向からの手立てを検討したりする。そうすることで、複数の教員や教室を使った学習を用いて学習を行う場合においても、一貫した指導に近付けることができると考える。

特別活動

『お祭りをしよう！』

【本題材で目指す意志をもっている姿とその理由】

学級生活をもっと楽しくするために、一人一人の好きや楽しいをとことん見付け、発揮する姿

児童の実態として、「友達に何か言われたらどうしよう。」という思いからやってみたいことを内に秘めていたり、自分の好きなことを突き詰めて、それを共感してもらおうことで、その人ともっと関わりたいという姿が見られたりする。また、一人一人思いをもっても、伝える経験の乏しさから、仲間に伝わらず、気持ちがすれ違うことも多い。そこで、本単元では、児童に親しみのある『お祭り』を題材に、一人一人の好きや楽しいを発揮しやすい活動を設定する。教師がそれぞれの思いを大切にする姿勢で関わり、活動を構成することで、安心して自分から好きや楽しいを見付け、発揮できるようにする。一人一人が自分の好きや楽しいを存分に発揮することが、学級生活をもっと楽しくするために役立つことを価値付け、他者を受け入れる素地を養いたい。

【題材の目標】

- ・お祭りを楽しむという共通の目的に向かって、自分の思いを表現したり、友達や教師と力を合わせて取り組んだりすることの大切さに触れ、方法を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- ・お祭りに向けて、自分の思ったことを言葉や動作で伝えたり、相手の表現を肯定的に捉えたりして折り合いをつけ、互いの良さを生かして取り組んでいる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・お祭りに向かって見通しをもち、自分のできることを考えたり、役割を決めたりしながら、自己の良さや得意を発揮して集団活動に取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

題材全体・1時間の見通しの整理・可視化

題材の構成や日時、活動内容を掲示物に表し、いつでも確認できるようにする。そうすることで、学習のゴールが何か、どのような流れで学習が進むのかなどの見通しをもてるようになり、「こんな1時間にしてみたい。」という思いを生む。また、授業の始めにその日の活動について簡単に計画を立て、授業の終わりに振り返ることができるような教材を用意する。1時間の活動を振り返ることで、次の活動へ意識が向き「次回は〇〇をしたい。」という思いが生まれ、やってみたい思いがさらに続いていくようにする。

子どもの興味関心・目線を大切にした関わり

子どもの「こんなお店をしたい。」の声を基に、お店をグループに分け、興味関心に応じて子どもが選択できるようにする。興味関心のある物を通じて他者の活動に目が向き、「自分もやってみたい。」思いにつながる。また、教師も一緒に活動に参加し、子どもと同じ目線に立って楽しい思いを表現する。そうすることで内に秘めていた思いを受け止めてくれる安心感から、自分も思いを表現できるようにする。他者から思いの表現の仕方を学び、自分も表現する経験を繰り返すことで、自信をもって友達へ思いを伝い合うことができるようにする。

【題材構成（8時間扱い）】

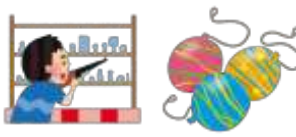
時数	1, 2		3～5（4/8本時）			6～8	
主な学習活動	学級を楽しくするために話し合おう		お店の準備をしよう			お祭りをしよう	
	自分も楽しい・みんなも楽しいお祭りにしよう！						
	【学級会①】 学級の問題を話し合おう	【学級会②】 お祭りを出すお店について話し合おう	グループで分担してお店の準備を進めよう	計画を立てて準備を進めよう	グループで協力しながら準備を進めよう	お店を出す練習をしよう	お店を出したりお店に行ったりしてお祭りをしよう
予想される子どもの姿	・みんなが楽しめることをしたいな。 ・自分たちで計画を立ててみたいな。 ・食べ物をみんなで食べたら楽しくできそうだな。 ・こんなお店をやってみたいな。 ・これまでお祭りをやった時に、こんな準備をしたよ。		・私はこんな準備をしてみたいな。 ・今日はここまで準備を進めよう。 ・計画通りに進まなかったな。休み時間も準備しよう。 ・自分の準備が終わった。まだ終わっていない人はいるかな？ ・お祭りが楽しみになってきた。			・他に準備が必要なことはあるかな？ ・他のグループが準備したお店も楽しみな。 ・みんなに楽しんでもらいたいな。 ・今度はこんなお祭りをしてみたいな。 ・こんなものがあるとよかったな。	
教師のかかわり	単元の見通しをもてるよう、時間ごとに何をやるかが分かる掲示物を用意する。						
	子どものつぶやきや発言を逃さずに見取り、全体やグループに共有する。						
	個々の表現ややり取りのよさを見取って、価値付ける。						
	思いがすれ違う場合には、教師が仲立ちすることで折り合いをつけながら意欲が持続するように支えていく。						
	・考えがずれていった場合には、目的に立ち戻れるように関わる。		・この時間にどんな準備をするか計画を立て、授業の終わりに振り返ることができるように、ホワイトボードを用意する。			・これまで準備してきたことに自信をもてるように、個々に合った形で支える。	

【本時の目標】

「楽しいお祭りをしたい」という目的のもと、お店のイメージや必要な準備についての思いを本人なりの方法で表現できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（４／８）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
＜前時まで＞ お祭りでどんなお店を出すのか、そのために必要な準備などについてのアイデアがあり、自分はこんな風にお祭りに関わりたいという考えをもっている。また、お祭り本番の日にはちや準備できる時間についての見通しがある。 前回は途中まで看板を作っていたな。 お祭り本番まで準備できる時間は○時間だな。 本物のお店みたいにお金を作ったら楽しいかな。		
○前時までの活動の確認、本時の計画 お祭り本番に向けて、お店の準備を進めよう！ 自分も楽しい・みんなも楽しいお祭りにするために、今日はどんな準備をしたらいいかな？ 前回作った看板の続きを作ろうかな。 まだ飾りが少なくて寂しい。お花の飾りを足して豪華にしたいな。 司会をするために、セリフを考えよう。 ○グループでのお祭りの準備 食べ物・飲み物  遊び  ステージ  個人での追及 作り方を調べるために、クロムブックで例を検索して参考にしよう。 セロハンテープでは貼る力が弱いな。ガムテープで貼ってみよう。 リボンをつけて可愛くしよう。 仲間との協力 これはみんなが好きそうだな。他の人にも聞いてみよう。 一人で作るのは難しいな。他の人に手伝ってほしい。 自信がないけど、○○さんと一緒だったらやりたいな。 みんなで考えたお店や計画に沿って、お祭りの準備を進めることができた。	お祭りやお楽しみ会の準備をした経験（図工・学活） 作りたい物に合った用具や材料の準備（図工など） 調べ方や用具を選択した経験 仲間との関わりや相談する相手を選択した経験（自立活動）	前回までにどんな準備をしてきたか、本番までにどれくらい準備の時間があるのかが分かるように、全体の流れを示した掲示物を貼る。（視点１） 自分が今日何をするか、何のためにそのお店の準備をするのか、計画や目的を可視化できるように、グループごとにお祭りボードを用意する。（視点１） 思いの表現の仕方を他者から学び、自分の気持ちを受け止めてくれる安心感をもてるように、教師も一緒に活動に参加し、子どもと同じ目線で楽しい思いを表現する。（視点２） 装飾、商品、衣装などやりたい活動に合わせてグループを組むことで、興味関心のある物事を通じて他者の活動や製作物に目を向けられるようにする。（視点２）
○活動の振り返りと次回に向けて 今日は思ったより準備は進まなかったけど、○○まで準備が終わったよ。 次回はもっと豪華な飾りつけになるように、○○をしたいな。 お祭りが近づいてきたな。本番が楽しみになってきた。 ○使った物や場の片付け、挨拶		振り返りの場面でお祭りボードに立ち戻れるようにすることで、授業の最初に立てた計画に沿った振り返りをし、計画と一緒に見直して次回への見通しに繋がられるようにする。（視点１）

【本時の評価】

楽しいお祭りの実現に向けて、お店のイメージや必要な準備についてお祭りボードに記入し、活動する中で生まれた思いを言葉にするなどして表現しようとする。（行動観察・発言・お祭りボード）

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 子どもの活動に対して何のために行っているのかを問い、目的に立ち返らせることで、やりたいこととお祭りを行うために必要なことを天秤にかけ、子どもが自分で判断する姿が見られた。子どもが活動に興味をもったまま、学びとなる部分が子どもにとっても見取りを行う教師にとっても明確になっていた。

【課題】

- お祭りボードの活用によりグループで振り返りを行うことができたが、一人一人が学習を振り返る時間が十分に取れていなかった。活動の様子を子どもが自分で写真を撮るなど、個に合った方法で一人一人が学びを振り返る場があると、自分の活動を客観的に見ることができ、振り返りにより必要感をもって取り組むことができたと考える。
- 学級目標「ミラクルトライ」と関連づけた掲示物により題材全体の見通しをもつことはできたが、本時の流れ、終わりの時間が子どもにとって見通せていなかった。一斉活動に入る前の準備や、視覚情報や聴覚情報を活用した活動内でのリズムづくりの工夫を行うことで、より1時間の活動内容や時間などの情報が子どもに入りやすくなったのではないかと考える。
- お祭りのお客さんが誰なのかが曖昧で、「誰のために」という相手意識が薄かった。学習の初めにお祭りに来てくれるお客さんを子どもに伝えることで、より目的意識をもってお祭りの準備を行う姿を引き出すことができたと考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 子ども同士の小さな関わりを教師が拾い、集団へつなぐように関わったことで、子どもが思いを受け止めてもらえる安心感を得ていた。自分の興味関心のある物事を通して、少しずつみんなで行う活動に向かえるようになっている。
- お祭りボードをグループごとに書くようにしたことで、本時の活動や振り返り、次の活動をグループみんなで考えようとする姿を引き出すことができた。グループの友達と自分の考えを合わせて、折り合いをつけようとする姿も見られた。

【課題】

- 本時では個人の活動だけに留まってしまった子どももあり、他者と関わる機会をもつことができていない時間もあった。題材構成の中に全体での中間発表やグループや教室内で交流の場を設けるなどし、他者の活動が目に入るような機会や環境の構成をすることで、より他者の学びに関心をもつことができたと考える。また、個人やグループだけでは達成することが難しい課題を設定することで、より他者の学びを必要とする姿を引き出すことができたと考える。
- 見取りや価値づけなどに手だてが偏り、教師によって関わりに違いが生じた。複数人で複数の学級を指導する難しさはあるが、指導計画を活用しながらその子にどのように関わるかを教師間で共有し、教室環境の構成や活動など、他者の学びを求めるための様々な手立てを検討することで、一貫した指導を行うことができたと考える。

特別活動

『お祭りをしよう!』

【本題材で目指す意志をもっている姿とその理由】

興味関心を基にやりたいことを見付け、学級生活を楽しくするために目標に向かって仲間と関わり合う姿

児童の実態として、友達が一人でいる時に心配したり、友達のために物を作ったりするなど、友達を思いやる気持ちが多く見られる。しかし、思いを伝え合った経験の乏しさから思いを伝える適切な方法を選ぶことが難しく、うまく思いが伝わらないこともある。本単元では、本人なりの気持ちの表現を逃さず見取り、価値付ける。そして子ども同士をつながられるように全体へ広めていく。そうすることで子ども同士の思いがつながるきっかけとなり、友達へ思いが伝わった経験を積み重ねられるようにしたい。学級目標の「ミラクルトライ」や「自分も楽しい・みんなも楽しいお祭りをしよう」という目標を浸透させ、子どもが自らその姿に向かえるようにしたい。

【題材の目標】

- ・みんなで学級生活を楽しくするという共通の目的に向かって、何のために他者(友達、教師)と自分たちで取り組むのかを理解している。【知識及び技能】
- ・みんなで学級生活を楽しくするために、自分の思ったことを言葉や動作で伝えたり、相手の表現を肯定的に捉えたりして折り合いをつけ、互いの良さを生かして取り組んでいる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・みんなで学級生活を楽しくするために見通しをもち、自分のできることを考えたり、役割を決めたりしながら、自己の良さや得意を発揮して集団活動に取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

題材全体・1時間の見通しの整理・可視化

題材全体の流れが明確になるように、題材の構成や日時、活動内容を掲示物に表し、いつでも確認できるようにする。学習のゴールが何か、どのような流れで学習が進むのか、今日やることは何かなどの見通しをもち、「こんな1時間にしてみたい。」という思いをもてるようにする。また、授業の始めに今日はどんな準備をするのか簡単に計画を立て、授業の終わりに振り返ることができるような教材を用意する。お祭り本番を見据え、残りの時数や準備の進み具合を意識しながらできる活動を考え、やるべきことを明確にして活動できるようにする。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

子どもの思いを逃さず見取り、価値付ける

子どもの「こんなお店をしたい。」の声を基に、お店を食べ物、工作などいくつかのグループに分け、興味関心に応じて子どもが自分で選択できるようにする。さらにグループで活動することを意識付け、関わり合う姿を価値付けて周りに広げ、教師も共に活動していく。そうすることで、協働的な学びの形として、まずは同じ場で活動する他者の考えや活動に目を向け、意識できるようにする。「お店を出す」という同じ目的に向かって、興味関心のあるものを通じて他者と関わり共感する楽しさを感じられるようにする。

【題材構成(8時間扱い)】

時数	1, 2	3~5	6~8 (8/8本時)
主な学習活動	学級を楽しくするために話し合おう	お店の準備をしよう	お祭りをしよう
	自分も楽しい・みんなも楽しいお祭りにしよう!		
	【学級会①】学級の問題を話し合おう	グループで分担してお店の準備を進めよう	グループで協力しながら準備を進めよう
予想される子どもの姿	【学級会②】お祭りで出すお店について話し合おう	グループで準備を進めよう	グループで準備を進めよう
	・みんなが楽しめることをしたいな。 ・自分たちで計画を立ててみたいな。 ・食べ物やみんなで食べたら楽しくできそうだな。 ・こんなお店をやってみたいな。 ・これまでお祭りをやった時に、こんな準備をしたよ。	・私はこんな準備をしてみたいな。 ・今日はここまで準備を進めよう。 ・計画通りに進まなかったな。休み時間も準備しよう。 ・自分の準備が終わった。まだ終わっていない人はいるかな? ・お祭りが楽しみになってきた。	・他に準備が必要なことはあるかな? ・他のグループが準備したお店も楽しみな。 ・みんなに楽しんでもらいたいな。 ・今度はこんなお祭りをしてみたいな。 ・こんなものがあるとよかったな。
教師のかかわり	単元の見通しをもち、時間ごとに何をすることが分かる掲示物を用意する。		
	子どものつぶやきや発言を逃さずに見取り、全体やグループにつなげる。		
	個々の表現ややり取りのよさを見取って、価値付ける。		
	思いがすれ違う場合には、教師が仲立ちすることで折り合いをつけながら意欲が持続するように支えていく。		
	・自分の考えをもって相手とつながれるよう、流れや考えなどを可視化できる教材を用意する。 ・考えがずれていった場合には、目的に立ち戻れるように関わる。	・この時間にどんな準備をするか計画を立て、授業の終わりに振り返ることができるようなホワイトボードを用意する。	・これまで準備してきたことに自信をもてるように、個々に合った形で支える。

【本時の目標】

「自分も楽しい・みんなも楽しいお祭り」を目指して、自分の得意や工夫を発揮しながら、仲間と協力して活動に取り組むことができる。

【学びに向かう力，人間性等】

【本時の展開】（８／８）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
＜前時まで＞ お祭り本番に向けて、自分のお店の準備や発表の練習を積み重ねてきた。 また、有志の子どもたちによる、お祭り本番の流れや進行について話し合いを進めてきた。		
〇お祭りの流れを確認して、出店の準備をしよう いよいよお祭り本番だ！ 今日の確認をしよう。 途中でお店の交代するんだな。 スタンプカードを使うんだ。 お店を全部回らなくてもいいんだな。 自分も楽しい・みんなも楽しいお祭りにするには、どんなことを考えて行動するといいのかな？ お店屋さん、お客さんになって楽しいお祭りを始めよう！ 〇前半（１５分）射的・水風船・くじ・カード・イラスト・コスメ     「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」を言う。 たくさん売れてうれしいな。 上手に作っているね。 〇後半（２０分）…かき氷、ベビーカステラ、ジュース     手早く、丁寧にお客さんに渡そう。 みんなが喜んでくれてうれしいな。 ぼくが運んであげるよ。 順番を守って並ぼう。 忙しそうだから、手伝うよ。 食べながら私たちの練習の動画を見てほしいな。 〇楽しかったこと・頑張ったことを発表しよう。 お客さんが喜んでくれて嬉しかったよ。 食べ物や飲み物がすごくおいしかったよ。 みんなで協力してお店を準備できて楽しかった。 またやりたいな。 次はもっと楽しいことをみんなでやりたいな。 お客さんにたくさん声を掛けたり、お店屋さんの遊びに進んで参加したり、感謝したりして、楽しいお祭りをするのができた。 〇挨拶、使ったものの片付け	お祭りやお楽しみ会の準備をした経験（図工・学活） 「どれにしますか」「これください」などのやり取り（国語・自立活動） 数や量や得点の計算（算数） 仲間との関わりや楽しかったことの振り返り（国語・自立活動）	本番までの全体の流れを示した掲示物を貼り、今日まで準備をしてきた頑張りを確認する。（視点１） 教師も一緒にお店を回りながら、仲間が頑張ってきたことを価値付ける。（視点２） 振り返りしやすいように、活動中の写真や動画を見せてから、子どもたちに発表を促す。 子どもたちの発表から授業の始めに立てた、「自分もみんなも楽しめるお祭りができた」ことに繋がるように伝え、満足感・達成感を味わうことができるようにする。（視点２）

【本時の評価】

みんなで学級生活を楽しくするために、話し合ったことを基に思ったことを言葉や動作で伝えたり、友達や自分の得意なことを生かしたりして活動に取り組んでいる。

【学びに向かう力，人間性等】

ここにスタンプを
おしてもらおう

年 名前

お祭り

スタンプラリー

- ベビーカステラ
- かき氷おレ
- シロップジュース
- 的しゃてき
- 糸会カード
- ヨーヨーフリ
- ピタゴラススイッチ
- トラマ
- 2スツトくじ
- コスメ
- きめつのしゃてき

2系且くみ

ベビーカステラチーム
1:55~2:15まで

フードコート...

廊下
3系且くみ

アイドルステージ
練習場
お楽しみ会

こうはん
後半

ぜんはん
前半

くみ1系且 1:40~1:55
まで

的しゃてき

糸会カード

ヨーヨーフリ

ピタゴラススイッチ

コスメ

2スツトくじ